

まえがき

本をたくさん読むと、人生を豊かにします。

一生のうちにどれだけの体験ができるでしょうか。一生のうちにいけるところ、会える人の人数、など、100歳まで生きるとしても限りがあります。しかし、本を読むと多くの他人の体験を知ることができます。ときには、優れた学者の数十年もの思索の結果を知ることができます。

吉田松陰は「万巻の書を読むに非ざるよりは、いづくんぞ千秋の人たるを得ん」と言っています。要は、多くの読書をしないと大成できないと言っているわけです。松陰は29歳で処刑される直前にも「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり」と言っています。すごい知識欲です。だからこそ、松陰は明治維新の英傑をたくさん育てることができたのでしょう。

私は、若い人に「1000冊本を読め」と言っています。1000冊読むとようやく世界の仕組みが、おぼろげながら分かってきます。2000冊を超えると、1冊ぐらいは本を書けるようになるかもしれません。

何を読むべきかと、よく質問されますが、好きな本・分かり易い本を読むべきでしょう。難解な本を1冊苦勞して読むより、分かり易い本を3冊読んだ方がいいと思います。また、近頃の芥川賞や直木賞受賞作品の質が非常に良くなっています。好きな作家を見つけて読んでみるのもよいかと思います。

この書評集は比較的分かり易い本を多く取り上げています。ぜひ参考にしてください。

2024年9月

株式会社プラネット
名誉会長

玉生 弘昌